



平成 29 年 8 月 10 日

各 位

東京都渋谷区神宮前 1 丁目 14 番 34 号原宿神宮の森
会社名 日本スキー場開発株式会社
代表者の役職氏名 代表取締役社長 鈴木 周平
(コード番号：6040 東証マザーズ)
問合せ先 常務取締役 宇津井 高時
電話番号 03-6434-0011

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成29年2月10日に公表しました平成29年7月期通期の業績予想の修正について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 平成29年7月期通期連結業績予想の修正（平成28年8月1日～平成29年7月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	6,300	600	590	280	35円00銭
今回修正予想 (B)	6,100	440	435	230	28円75銭
増減額 (B-A)	△200	△160	△155	△50	
増減率 (%)	△3.2	△26.7	△26.3	△17.9	
(ご参考) 前年実績	5,584	107	95	△117	△14円63銭

2. 修正の理由

前期に引き続き、昨年12月から本年1月前半にかけて、本州では小雪となりました。当社が運営するスキー場において、小雪対策投資を重点的に実施した川場スキー場及びめいほうスキー場では、前期よりも来場者が増加した動きが見られたものの、当初想定しておりました積雪量が通常年に比較して少なく、一部のスキー場において、オープン日が予定より遅延し、また、オープンしたものの雪不足により、全てのスキー場において、滑走エリアを十分に確保できなかったことなどの影響を受けました。

そのため、平成29年2月10日に公表しました平成29年7月期業績予想修正において、ウィンターシーズンの来場者数を見直し、一方で、グリーンシーズンについては、業績を見直す兆候が見られなかったため、当初の計画を継続する形で、修正致しました。

《ウィンターシーズン》

スキー場別来場者数

(単位:千人)

運営スキー場名	平成27年7月期	平成28年7月期	平成29年7月期		対比 (A/B)
	実績	実績	実績 (A)	修正後計画 (B)	
HAKUBA VALLEY白馬八方尾根スキー場	427	381	378	389	97.3%
HAKUBA VALLEY白馬岩岳スノーフィールド	113	73	※2 85	※2 82	105.1%
HAKUBA VALLEY栂池高原スキー場	246	250	※2 249	※2 251	99.4%
HAKUBA VALLEY鹿島槍スキー場	142	97	95	98	98.1%
竜王スキーパーク	255	197	204	201	101.6%
川場スキー場	146	107	149	152	98.7%
めいほうスキー場	217	141	183	188	97.3%
菅平高原スノーリゾート	※1 -	255	245	258	94.9%
計	1,550	1,484	1,593	1,620	98.4%

※1：菅平高原スノーリゾートは、平成27年11月より当社グループに加入しており、「平成26年11月～平成27年1月実績」の来場者数を記載しておりません。

※2：HAKUBA VALLEY白馬岩岳スノーフィールド及びHAKUBA VALLEY栂池高原スキー場における来場者数は当期よりシーズン券等の来場者数を含んでおります。比較のため、実績の来場者から、シーズン券等の来場者数を控除しております。

ウィンターシーズンについては、上記の通り、来場者数が修正後の計画に対し、未達となりました。とりわけ、各スキー場での売上高を来場数で除した来場者単価が比較的高い川場スキー場及びめいほうスキー場で来場者数が未達となったことから、売上高が減少しております。また、来場者単価については、計画に対して、未達となったため、売上高が予算に対して、未達となりました。来場者未達による売上高の減少は約49百万円に留めることができました。しかし、一方で、主に川場スキー場、めいほうスキー場及び竜王スキーパークにおいて、料飲及びレンタル利用が計画通りに進まず、来場者単価が計画より下回り、単価下落の影響による売上高の減少は修正後の計画に対し、約166百万円となりました。この結果、ウィンターシーズンでの売上高は修正後の計画に対し、約216百万円の減少となりました。

《グリーンシーズン》

索道施設別来場者数

(単位:千人)

索道施設名	平成27年7月期	平成28年7月期	平成29年7月期		対比 (A/B)
	実績	実績	実績 (A)	修正後計画 (B)	
HAKUBA VALLEY国際山岳リゾート白馬八方尾根	112	112	98	104	93.7
HAKUBA VALLEY白馬岩岳ゆり園&マウンテンビュー	23	31	25	25	99.2
HAKUBA VALLEYネイチャーワールド柵池高原	92	95	78	87	89.7
竜王マウンテンパーク	9	31	60	52	114.7%
計	238	270	262	270	97.0

グリーンシーズンにおいては、竜王マウンテンパークの売上高は、来場者数が前期に比較し、倍増となるなど、修正後の計画に対して、増加したものの、本年7月において白馬エリアでは、例年に比較して、長雨による悪天候が断続し、来場者が修正後の計画に達せず、竜王マウンテンパークの増収が減殺され、グリーンシーズンの売上高は約16百万円の若干の増加に留まりました。各索道施設での売上高を来場数で除した来場者単価はほぼ計画通りに進捗しました。この結果、グリーンシーズンでの売上高は修正後の計画に対し、約16百万円の増加となりました。

売上原価・販売費及び一般管理費については、事業の特性から固定費の占める割合が高いため、期初時点の前提から大きく変動いたしません。売上高の減少により連動する人件費、料飲関係の仕入原価及び燃料等のエネルギーコストの合理化等による原価項目の減少に努め、売上原価及び販売費及び一般管理費を約40百万円減少する見込みとなりました。

営業外収益及び営業外費用については、平成29年2月10日に公表しました平成29年7月期業績予想修正から大きな変動がございませんので、営業利益の影響額を経常利益の修正に反映しております。

特別利益及び特別損失については、平成29年2月10日に公表しました平成29年7月期業績予想修正において織り込んでおりました、事業譲渡益及び当社グループの一部のスキー場の減損損失を第3四半期連結累計期間にて計上しております。第4四半期連結会計期間においては、固定資産売却益及び災害損失等を計上する見込みであります。また、一部連結子会社における法人税等調整額の税効果区分が変更したことによる影響を踏まえ、親会社株主に帰属する当期純利益について、修正するものであります。

(注)上記の業績予想は、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上